

よりかなり多くの生徒が受験するようになり、合格を目指して一生懸命勉強しようとする取組が見られるようになった。今年度卒業する生徒のうち、約半分の生徒が準2級以上を取得することができたのも、学校での試験実施が一つの要因と言えるだろう。また、帰国子女ではない3年生が、今年度第1回目の試験において英検1級を取得することができた。このことは、周囲にも非常に良い影響を与えることとなった。

また、TOEIC IP の受験も学校で実施することにした。さらに、海外語学研修の参加者は、原則として TOEIC Bridge を受験することとした。前述の英検1級に合格した生徒も、2年時から3回連続で TOEIC IP を学校で受験し、最終的にスコアを 905 点まで伸ばすことができた。

そして、今年度からの新しい試みとして、1・2年生に GTEC for STUDNETS を実施することにした。そのことに伴い、ライティングの指導強化を図った。指導と結果(評価)が一体化したことで、次はもっと良い文章を書こうという新たなモチベーションを生徒にもたせることができたと考えられる。

○ 取組紹介 3 : 山口県立大津緑洋高等学校

<p>平成25年度の英語の履修単位数 1年生「コミュニケーション英語Ⅰ(3単位)」「英語表現Ⅰ(2単位)」、2年生〈文系コース〉「英語Ⅱ(3単位)」「ライティング(2単位)」、〈理系コース〉「英語Ⅱ(2単位)」「ライティング(2単位)」、3年生〈文系コース〉「リーディング(3単位)」「ライティング(3単位)」「オーラル・コミュニケーションⅡ(選択・2単位)」「総合英語(選択・4単位)」、〈理系コース〉「リーディング(2単位)」「ライティング(3単位)」</p>

1. ライティング力を向上させる活動

(1)「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標に基づいて、「書く量」及び「書く内容」について段階的に指導をしている。

山口県立大津緑洋高等学校 「書くこと」の学習到達目標	トピック例 (各学期2~3)
W6(3年中期~後期)	
<p>□社会問題を含む多様な話題について、<u>100語</u>程度のまとまった英文を25分以内で書くことができる。 ■序論-本論-結論の3部構成に基づいて、自分の考えや意見を、その根拠となる客観的事実や賛成・反対の立場を明確にしながら、論理的かつ説得力のある意見を展開することができる。《パラグラフライティング》 (表現) 接続詞や関係詞、分詞構文を適切に用い、重文、複文を使い分けた効果的な文を書くことができる。</p>	<p>Are you for or against (GM food, fall enrollment, eco-tourism, female assistants, the use of nuclear power, the total ban of smoking, etc.) ?</p>
W5(2年後期~3年前期)	
<p>□社会問題を含む多様な話題について、<u>80語</u>程度のまとまった英文を25分以内で書くことができる。 ■1つのパラグラフ内において、トピック・センテンス(主題文)とサポーター・センテンス(例示や理由などの支持文)を適切に用いたり、談話標識(対比・逆接・追加・結果など)を効果的に用いたりして、自分の意見を論理的に展開することができる。 (表現) 形式目的語の it や allow, make it possible などを使った英語特有の言い回しを活用して簡潔な文を書くことができる。</p>	<p>Face to face or email? / City life or country life? / Are you for or against (school uniforms, doing a part-time job, 24-hour open stores) ?</p>

W4(2年初期～中期)	
<p>□日常生活における多様な話題について、「英語表現Ⅱ」の教科書レベルの英文を参考にして、70語程度の英文を書くことができる。</p> <p>■教科書中の例文を応用して英文を書くことができる。</p> <p>■談話標識や代名詞を適切に用いて、<u>文と文の繋がり</u>を意識した英文を書くことができる。</p> <p>(表現) because, although, unless 等の接続詞を用いたやや長めの複文を書くことができる。</p>	<p>What I have learned from work experience / Three things to take to a deserted island / What we can do for the environment</p>
W3(1年後期～2年初期)	
<p>□日常生活における多様な話題について、「英語表現Ⅱ」の教科書レベルの英文を参考にして、60語程度の英文を書くことができる。</p> <p>■教科書中の基本例文に沿った英文を書くことができる。</p> <p>■目的に合った適切な文体で、手紙やメールを書くことができる。</p> <p>(表現) 手紙やEメールで使われる定型文及び読み手を意識した丁寧な表現を書くことができる。</p>	<p>What makes me happy./ Email to your (friend, family, teacher, etc.)/A letter to myself in ten years / The (book, movie, food, place .) I recommend/Giving advice/</p>
W2(1年中期)	
<p>□日常生活における身近な話題について、「英語表現Ⅰ」の教科書レベルの英文を参考にして、40語程度の英文を書くことができる。</p> <p>■教科書中の例文を応用して英文を書くことができる。</p> <p>(表現) 未来・過去などの時を表す表現や仮定法などを適切に用いて文を書くことができる。</p>	<p>Countries that I'd like to visit / A letter to myself in ten years / Japanese (annual events, traditional customs) / If I had one billion yen</p>
W1(1年初期)	
<p>□日常生活における身近な話題について、「英語表現Ⅰ」の教科書レベルの易しい英文を参考にして、20～30語程度の英文を書くことができる。</p> <p>■中学既習レベル及び教科書中の基本例文に沿った英文を書くことができる。</p> <p>(表現) 主語と動詞の一致、単数・複数を意識しながら文を書くことができる。</p>	<p>Self-introduction / My favorite (comic book, music, sport, food, season etc.) / My plans for the weekend</p>

(2) 評価と活動の成果について

生徒が書いた英文については、基本的にALTやJTEが読んでコメントをつけて返却するようにしている。また、できるだけペアやグループ内で発表し合い、生徒が相互に評価する場を設けている。さらに、定着を図るために定期考査でも同様の話題について書かせている。これらの取組の成果としては、

- 継続的に書くことで、「英語で意見を書くこと」への抵抗感がなくなり、むしろ、積極的になった
- 型に入れて書く練習をすることで、意見を組み立て、論理的に文章を書くことができる生徒が確実に増えている

などの点があげられる。

2. 授業改善のための教員研修

「英語によるコミュニケーション能力・論理的思考力を強化する指導改善の取組」事業に基づく「英語力を強化する指導改善の取組授業研修会」始め、山口県教育委員会や高教研英語部会の

研修に参加するほか、「山口県英語教育フォーラム」や「高等学校における即興型英語ディベートセミナー」等の自主的研修、長門市内の中学校との中高連携英語授業研修会、校内での研究授業及び協議会など、多くの機会を活用して日々の授業改善に役立てている。

3. 英語部によるディベート活動

本校の英語部は、3年前に山口県で初めて全国高校生英語ディベート大会に参加し、次年度は本校を拠点として県大会を立ち上げるなど、山口県内の英語ディベートをリードしてきた。県代表として3度の全国大会も経験している。また、実践で使える英語力を育成するために、論題発表から15分～20分の準備時間で論を組み立て、3分～5分のスピーチを行う即興型ディベートにも取り組んでいる。また部活動単位での活動ではあるが、英語部員の存在は、「英語で自分の意見を述べる」モデルとして周囲の生徒にやる気と刺激を与えている。



4. グローバル人材育成を目指した国際交流活動

本校は、学校教育方針の1つとして国際交流の推進を掲げている。具体的には、今年で3年目となる韓国の中馬高校との授業や交換会などの交流、修学旅行（東京方面との選択）でマレーシア・シンガポールのイングリッシュカレッジ等との国際交流を行っている。実際に英語を使って交流する経験が、「英語を身に付けたい」という大きな動機付けになっている。また、本校に常駐しているALTの存在も大きい。生徒がALTと授業内外で会話をしたり、ALTから世界の様々な情報を聞いたりすることによって刺激され、英語学習への関心を高めている。

5. 外部検定試験（実用英語技能検定・TOEIC）の積極的活用

現3年生は1年生より実用英語技能検定を積極的に受験しており、何らかの級を受験したことのある生徒は95%を超える。60%以上の生徒は準2級以上を取得し（準2級46人、2級23人、準1級1人）、英語学習への大きな動機付けになっている。また、本校では年一回TOEICを実施しており、現3年生は昨年4月に24名の希望者が受験した。800点以上が1人、600点以上が2人、500点以上が7人出るなど、コミュニケーション能力の向上が見られた。

総じて言えば、今回の英語力の向上は、普段から行っている実践的英語力を育成するためのかけがえのない生徒の学習意欲を高め、結果として現れたものと考えられる。